



気象庁

松江地方気象台

Matsue Local Meteorological Office, JMA

報道発表

いのちとくらしをまもる  
防災減災

令和5年10月17日  
松江地方気象台

令和5年10月15日に島根県出雲市で発生した突風について

～気象庁機動調査班による現地調査の報告：第2報～

10月15日02時頃、島根県出雲市河下町灘平（かわしもちょうなだひら）から奥宇賀町布勢灘（おくうがちょうふせなだ）にかけて発生し被害をもたらした突風の種類は、竜巻の可能性のあるものの特定に至りませんでした。その強さは風速約50m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当します。

10月15日02時頃、島根県出雲市河下町灘平から奥宇賀町布勢灘において突風が発生し、住家の屋根の野地板の破損及び飛散などの被害がありました。

このため10月16日と17日、松江地方気象台は、突風をもたらした現象を明らかにするため職員を気象庁機動調査班（JMA-MOT）として派遣し、現地調査を実施しました。

調査結果は以下のとおりです。

#### 1 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は竜巻の可能性のあるものの特定に至りませんでした。

（根拠）

- ・突風発生時に活発な積乱雲が付近を通過中であった。
- ・被害や痕跡が帯状に分布していた。
- ・竜巻に特徴的な「ゴー」という音が移動したという証言が複数得られた。

#### 2 突風の強さの評定

この突風の強さは、風速約50m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当します。

（根拠）

- ・木造住宅の屋根の野地板の破損及び飛散

### 3 現地調査結果（被害状況、聞き取り資料）

松江地方気象台が10月16日と17日に出雲市河下町灘平と奥宇賀町布勢灘において、被災を受けた建築物等の分布・被災の程度、風の状況等を、現地調査すると共に住民から聞き取り調査を行いました。



出典：地理院地図

#### (1) 被害状況



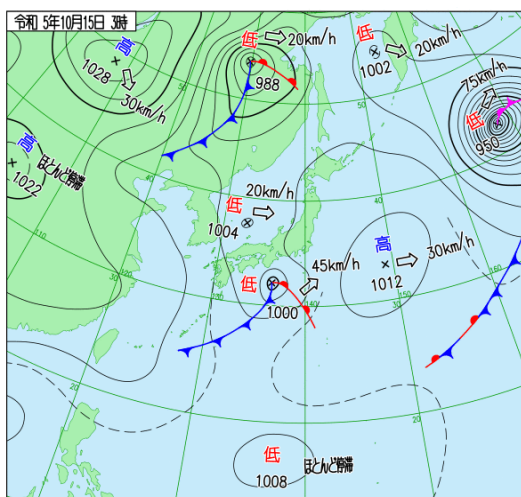
屋根の野地板が飛散した住家（布勢灘地区）

(2) 聞き取り資料

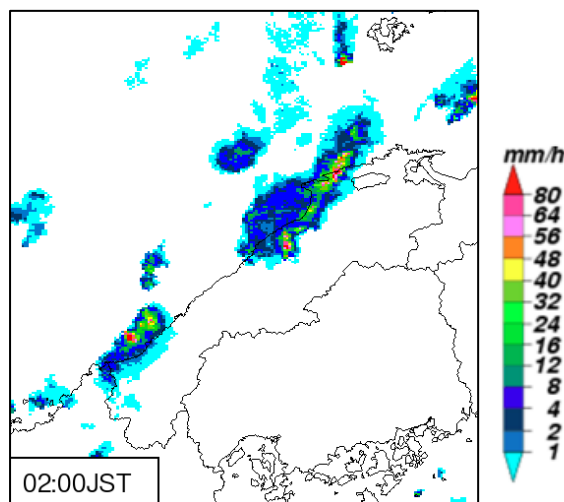
- A) 01 時 55 分に消防へ通報、バリバリと屋根のはがれる音で目覚めた。(布勢灘地区)
- B) 02 時頃、就寝中に突然の大きなゴーという風の音がして目覚めた。5分程度続き、その後風はぴたりと止んだ。(灘平地区)
- C) 02 時頃、雨と風が強まりゴーという音が近づいて離れていった。(灘平地区)
- D) 雨と一緒にゴーという音がした。時間的には3~5分程度であった。(布勢灘地区)

#### 4 気象状況

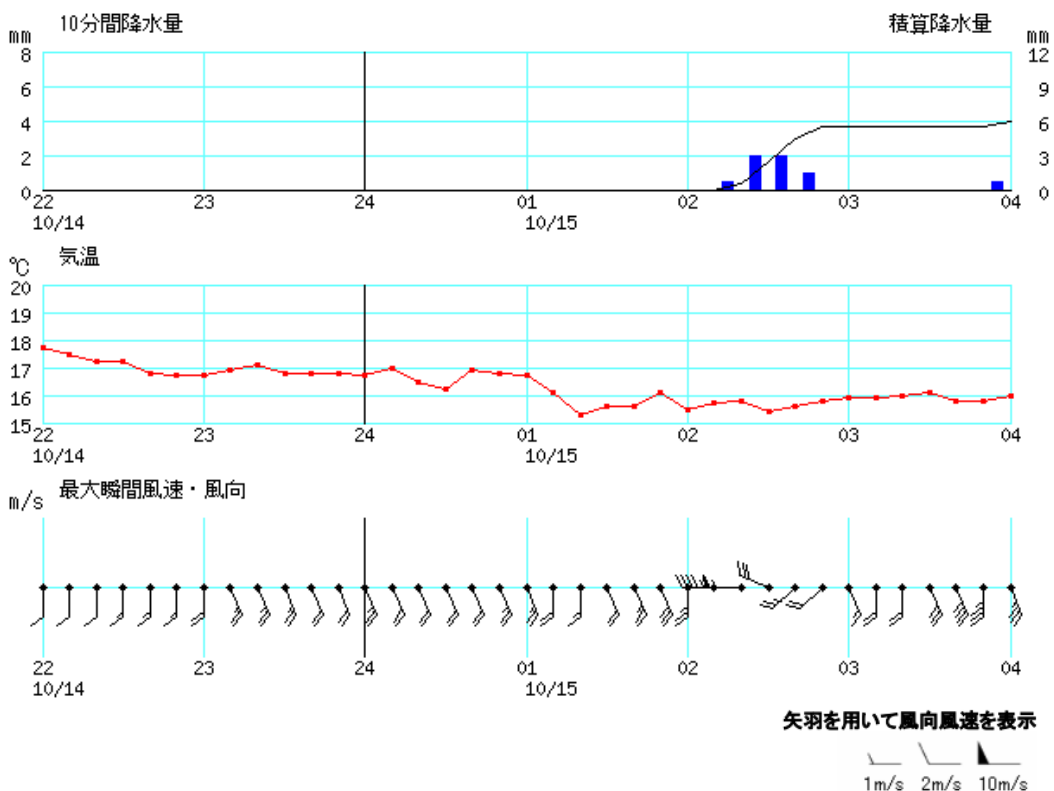
島根県では、10月15日は寒気を伴った気圧の谷が通過した影響により、大気の状態が非常に不安定となり、活発な積乱雲が発生しました。活発な積乱雲が通過した出雲市では、突風とみられる現象が15日02時ごろ発生し、これにより住家の屋根に一部損壊等の被害がありました。



10月15日03時の地上天気図



10月15日02時00分の  
気象レーダー画像



アメダス斐川 時系列グラフ (10月14日22時～15日04時)

## 5 松江地方気象台が執った措置

(10月14日～10月15日)

注意報・警報の発表状況（出雲市のみ抜粋）

月日	時刻	種類
10月14日	16時03分	雷注意報
10月15日	08時53分	大雨注意報、洪水注意報、雷注意報
	10時30分	雷注意報
	15時40分	解除

竜巻注意情報の発表状況

月日	時刻	標題
10月15日	06時53分	島根県竜巻注意情報 第1号

島根県気象情報発表

月日	時刻	標題
10月14日	04時39分	突風と降ひょう及び落雷に関する島根県気象情報 第1号
	16時20分	突風と降ひょう及び落雷に関する島根県気象情報 第2号
10月15日	05時07分	突風と降ひょう及び落雷に関する島根県気象情報 第3号

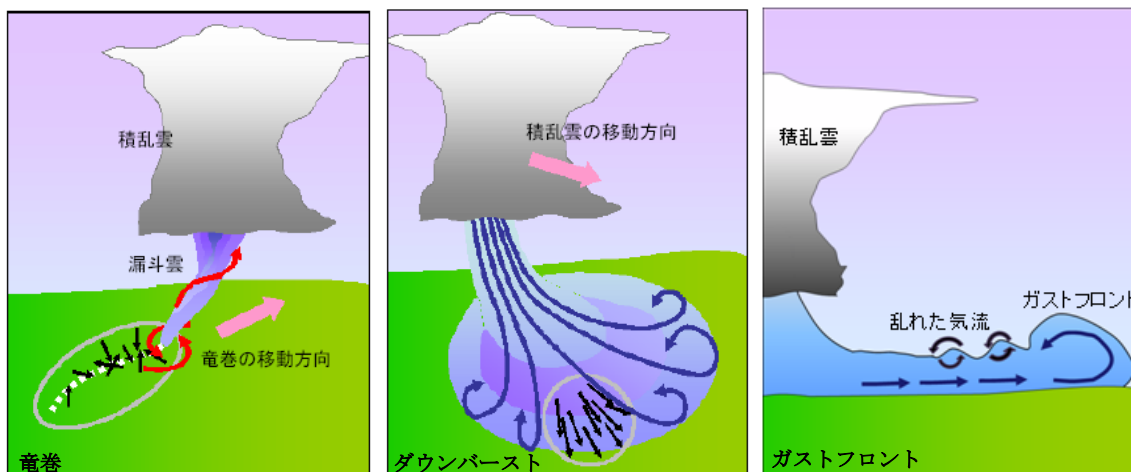
※この資料は、速報として取り急ぎまとめたものですので、後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。

問合せ先：松江地方気象台 防災管理官室 担当 門脇 電話：0852-22-3784  
(平日 08:30～17:15)

<参考資料>

突風の種類

現象	特徴
竜巻	積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。
ダウンバースト	積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・ひょうを伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが4km未満のものをマイクロバースト、4km以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。
ガストフロント	積雲や積乱雲から吹き出した冷気先端と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がるが多く、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。
じん旋風	晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。
漏斗雲	竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。
その他の突風	自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。



↑竜巻の模式図(左)

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。

↑ダウンバーストの模式図(中)

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

↑ガストフロントの模式図(右)

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

## 日本版改良藤田スケール（JEF スケール）

米国シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速 (m/s) の範囲 (3 秒値)	主な被害の状況 (参考)
JEF0	25~38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。</li> <li>・ 園芸施設において、被覆材（ビニルなど）がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。</li> <li>・ 物置が移動したり、横転する。</li> <li>・ 自動販売機が横転する。</li> <li>・ コンクリートブロック塀（鉄筋なし）の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。</li> <li>・ 樹木の枝（直径 2cm~8cm）が折れたり、広葉樹（腐朽有り）の幹が折損する。</li> </ul>
JEF1	39~52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。</li> <li>・ 園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。</li> <li>・ 軽自動車や普通自動車（コンパクトカー）が横転する。</li> <li>・ 通常走行中の鉄道車両が転覆する。</li> <li>・ 地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。</li> <li>・ 道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。</li> <li>・ コンクリートブロック塀（鉄筋あり）が損壊したり、倒壊する。</li> <li>・ 樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。</li> </ul>
JEF2	53~66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷（ゆがみ、ひび割れ等）する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。</li> <li>・ 鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。</li> <li>・ 普通自動車（ワンボックス）や大型自動車が横転する。</li> <li>・ 鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。</li> <li>・ カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。</li> <li>・ コンクリートブロック塀（控壁のあるもの）の大部分が倒壊する。</li> <li>・ 広葉樹の幹が折損する。</li> <li>・ 墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。</li> </ul>
JEF3	67~80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・ 鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。</li> <li>・ 鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。</li> <li>・ 工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> <li>・ 鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。</li> <li>・ アスファルトがはく離・飛散する。</li> </ul>
JEF4	81~94	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> </ul>
JEF5	95~	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・ 鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。</li> </ul>

## 日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221\\_kentoukai/guideline.pdf](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf)